

宋代青磁輪花椀復元

三重県齋宮歴史博物館蔵 破片から復元品を製作

文化財の保存と複製

「ニューズレター」

VOL. 9 / August

2009年8月

越州窯系青磁輪花椀の

復元資料の製作

三重県齋宮歴史博物館のご依頼で、多くの齋宮跡出土品の中の一つである青磁椀片を元に、復元品の製作を行いました。齋宮（さいくう）は、「いつきのみや」とも呼ばれ、齋王の宮殿と齋宮寮という役所があったところで、齋王は、天皇に代わって伊勢神宮に仕えるため、天皇が即位すると未婚の内親王の中から卜定（ぼくじょう）と呼ばれる占いの儀式で選ばれて都から伊勢に派遣され、都に準じた祭礼や年中行事を行いました。

祭祀に必要な品々、齋王の身の回りに必要な品々、齋宮寮の維持に必要な品々は諸国や伊勢国内から税として集められました。これらの中には、発掘調査により出土したのもあり、今回の青磁破片もその中のひとつです。



出土時青磁破片



錫箔で保護して型取り

復元



彩色



完成品



製作所感

現物資料を型取りし、この小さな破片から全体の形を復元するのですが、繊細な形の表現には時間がかかりました。越州窯青磁の繊細な形状まで表現が出来たので大変喜んでいただきました。舶来の青磁は、齋王自身に用いられたこともあったのでしょうかー王朝ロマンのあふれる齋宮へ一度あしをはこんでみてはいかがでしょうか。

ー京都科学・松本宏二ー



三重県齋宮歴史博物館:
<http://www.pref.mie.jp/saiku/hp/index.htm>
特別展「日本の宝・齋宮」:
http://www.pref.mie.jp/saiku/hp/gyouji/h21gyouji/nihon_no_takara.htm

お問合せは075-605-2540
京都科学・造形システム部
担当:小林泰弘まで

復元品の概要

施主 三重県齋宮歴史博物館
青磁破片 直径一八〇高さ六三ミリ
残存部分 高台径六分の一
中国五代 宋時代（九世紀）
場所越州 現在の浙江省
出土地 三重県明和町齋宮跡